

# TOPICS

## 上田夏生教授(医学部長)が国際学会で学会賞を受賞

上田夏生教授は、国際カンナビノイド学会で、Mechoulam賞(学会賞)を受賞し、6月21日～24日にオンラインで開催された第31回年会で受賞講演を行いました。2000年に創設された同賞を日本人研究者が受賞するのは今回が初めてのことです。

乱用薬物の一種である大麻(マリファナ)が興奮を引き起こす仕組みが調べられた結果、「エンドカンナビノイド・システム」と呼ばれる情報伝達系が体内に発見され、大麻の精

神作用は、大麻に含まれるカンナビノイドと呼ばれる成分が脳などに存在する受容体に結合し、この情報伝達系を攪乱することで生じることが明らかにされています。同学会は650名以上の会員を擁する国際学術団体で、カンナビノイドやエンドカンナビノイド・システムなどに関する研究の振興を目的としています。

上田教授は25年以上にわたりヒトの体内に存在するマリファナ様物質(エンドカンナビノイド)



受賞報告会 8/18 上田教授(左) 寛学長(右)

の合成や分解を触媒する酵素の解明に取組み、新しい酵素の発見やcDNAクローニングなど、一連の成果が評価されました。

## 令和3年度香川大学学業優秀者学長表彰式を実施 8/5

学長表彰式は学業成績及び人物共に特に優れていると認められた学業優秀者を表彰するものです。今年度は、学部学生40人、大学院学生14人の計54人が選ばれました。学業優秀者には学長から表彰状と記念品のクリスタルトロフィーが授与され、香川大学校友会から商品券が贈られました。

表彰式には役員や学部長も臨席。学長から

はコロナ禍においても変わらず勉学に励んできた努力と功績を称えとともに、より一層の邁進を期待する旨の祝辞が述べられました。懇談会での学長への質問では学生から自由な質問が飛び交い、各学部に分かれてのディスカッションでは、学部長含め輪になり、終始和気あいあいとした雰囲気活発な話し合いが行われました。



## 農学部新学生食堂「Kitchen Agu」オープン 7/26

農学部学生食堂「Kitchen Agu」がオープン。当日は新食堂前でオープニングセレモニーが盛大に執り行われました。学生食堂名は学生に公募し「Kitchen Agu」と命名。オリーブの木や、ブドウ、キウイ棚の緑色に映える素敵な色合いの建物です。店内は木のぬくもりを感じるテーブルやイスが配置され、

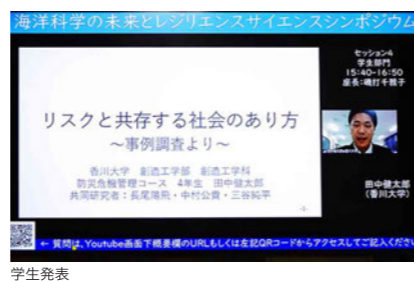
天気の良い日はテラスで食事ができるようになっています。



## 海洋科学の未来とレジリエンスサイエンスシンポジウムを開催 7/21

シンポジウムは、会場での実施とともにYouTubeでライブ配信が行われ、会場で2名、オンラインで231名の計233名が参加。「地震津波分野」「海洋環境分野」「レジリエンスサイエンス分野」「学生部門」の全4部で構成し、学内外の16名の研究者・学生が、

理学、工学、防災、環境等の幅広い観点から研究成果を発表。各セッションにおいて、座長と発表者の間で、海洋科学の未来像とレジリエンスサイエンスの展望について活発な議論が行われ、参加者からも多数の質問が寄せられました。



学生発表

# KADAIGEST 2021 8



試合では皆で団結して応援します



先輩に果敢に挑んでいきます



西医体、優勝旗と優勝杯は重かったです



西医体終了後、やり切った感がでています



試合では緊張しながらも、いつも通り心をかけています 香川大学(右)



医学部祭で披露したエアーパード、何事も全力に！一番盛り上がった瞬間です

## 医学部 剣道部

私が剣道部に入り、印象に残っているのは2019年の夏のことです。一番大きな大会である西日本医学科学学生総合体育会剣道大会の女子団体決勝戦、香川大学医学部剣道部の勝利の旗が上がった瞬間は今まで感じたことのないドキドキと感動が胸がいっぱいでした。私は他の部員と大きな会場の中心にぎゅっと集まり、戦う先輩に「ドンマイ、大丈夫!」、「いいよ!いいところ!」と一生懸命にエールと拍手を送りました。そしてそれに応えてくださるように対戦相手に技をねじ込む先輩方の姿を見て、圧倒されたと同時に『チームが一つとなって全力になること』のすばらしさや大切さを改めて実感することができました。

現在は新型コロナウイルスの影響で大会の開催が中止となり、練習も週に2回と制限はありますが、限られた練習時間の中で、先輩から指導いただくとともに、同期同士で切磋琢磨し、一人ひとりが上達を目指して活動しています。また部活に楽しいのはもちろんのこと、部活外でも学年を超えて楽しく会話をしたり、先輩からの無茶ぶりも笑いに変えて返して下さる先輩がいて仲の良さも医学部剣道部の魅力だと思います!

もし、興味のある方がいれば気軽に香川大学医学部キャンパスの剣道場に遊びに来て下さい。いつでもお待ちしております!

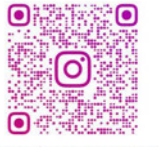
活動場所・医学部剣道場  
活動時間(通常)・月、水、金 18:00~  
部員数 ・26人  
Twitter ・@medicalkendo



サークル歴3年  
医学部3年  
中川 薫



## 香川農業発信 KaNoHa Project



PROJECT\_KANOHA



初回の作業の時の写真。4団体で畝づくりから始めました。来年は今年の実験を活かして土づくりと畝の作り方にもこだわりたいと思っています。

KaNoHa Projectは地域の農業について学び、大学生だからこそできる、農業・食分野での地域貢献を実現するために設立しました。現在21人の香川大学生と一人のインドネシアのポゴール農業大学生で活動しています。私たちの活動は大きく分けて「①学生向けの農業体験の場づくり」と「②地域の方に向けた情報提供」の2つに分けることができます。

### ①学生向けの農業体験の場づくり

私たちは農学部3プロジェクト ASUS、Lieto Ottimo、棚田の会と協力しながら100坪の学生ベンチャーファームで実際に野菜を育てています。農作業を行うだけでなく、作物の加工や収穫体験を通じて小さな規模ですが6次産業化（収穫物を用いた商品開発・子ども食堂への野菜提供等）も考えています。最初の試みとして、7月には収穫した「100円プチトマト」の販売を行いました。生協のお弁当にプラスワンで野菜を食べていただけるよう、

少量でリーズナブルな価格を設定。今後も秋野菜、冬野菜とさまざまな野菜に挑戦し、イベントも行う予定です。

### ②地域の方に向けた情報提供

大学外で農家の方へのインタビュー・イベント企画などを行っています。今年の5月に行った「アスパラ大騒がない」というイベントでは「アスパラもしも」というブースを出展しました。一ヶ月間でのブース制作は非常に忙しかったのですが、メンバー全員が協力し、放課後の時間を用いてインタビューや美術の制作を行いました。なかでも巨大アスパラ像はフォトスポットとして多くの来場者の皆さまから好評をいただきました。段ボールを用いて1〜2メートルある大きなアスパラ像を5本制作。段ボールの像は軽く子どもでも持ち上げることができ、100名以上の方がさまざまなポーズで写真撮影を楽しんでいらっしゃいました。

また、アスパラの妖精「アスパラーズ」という仮想キャラクターを5つの農家さんと一人の農業試験場の方に実際に会ってお話を伺い制作しました。農場ごとの「さぬきのめざめ」の味や工夫の違いを、キャラクターを通じて来場者の方々に知っていただくことができました。私たちの活動を通じて香川の農業を地域の方に知って好きになっていただくことで、いつかは香川の農産物が「さぬきうどん」のように全国に知られるようになってほしいと考えています。また、今までは農家の方から学ぶことが多かったのですが、今後は大学の先生方からも話を伺い研究と仕事の両面から農業について学んでいく予定です。プロジェクトには、さまざまな学部の学生が在籍しています。今後も文理の隔てなく、多方面に興味関心を持つ学生が集い、座学では得られない実践的な学びを、プロジェクト活動を通じて実現していきたいと思っています。今後も私たちの活動に注目していただくと幸いです。



トマトは土質に合っていたのかよく採れました。来年は品種選びからこだわっていききたいです。



農学部生協ショップでの販売の様子。100円というお手頃値段と5・6個のプチトマトというサイズ感が好評でした。



さつまいもの苗を植えています。収穫時には子どもたちや留学生に向けて収穫イベントを行う予定です。



ステイホームでの活動として、頂いた野菜を調理して簡単な調理方法をSNSで紹介しています。



水耕栽培でメロンを育て販売している農家を訪問。最新の農業、6次産業や地産地消への取り組みなどについても学んでいます。



新入生歓迎会では規格外ほうれん草を用いたほうれん草のキッシュを作りました。



丸亀町グリーンでの収穫物販売イベント。朝に農家を訪れ私たちが収穫したものを販売。対面販売の強みをいかし、農家さんの思いや新鮮だからこそできる食べ方を紹介しました。



6人のアスパラ農家を訪問。アスパラハウスを見学させていただき話を伺いました。実際に訪問することでしか分からない発見が多く、今後も農家さん訪問を積極的に行っていきます。



さぬきのめざめ農家さんと、そのアスパラの味や工夫の違いをキャラクター化した「アスパラーズ」。それぞれのキャラクターの性格やアスパラーズ同士の交流も描かれています。

アスパラ大騒ぎの準備。アスパラ像は段ボールを一つひとつ切り取って部品を作り、組み合わせることで立体感を出しました。子どもたちが持ち上げたり遊んだりしても壊れず、かつ危なくないように軽くて頑丈なものを制作しました。



コロナ禍で参加したイベントでの農家さんとの出会い、石巻の漁師さんの元でのインターンがきっかけで、第1次産業に携わる方と関わり、現状を知りたいという思いが強まり昨年9月にプロジェクトを立ち上げました。



農学部応用生物科学科 応用生命科学コース 3年 堀内日向歩



イベント「アスパラ大騒がない」本番。アスパラ像と写真を撮影したり、ブースを楽しんでいただきました。